

新約聖書の成立（と構造）

芦田 道夫

1. 歴史的背景

新約聖書の成立について考えなければならないのは、旧約聖書が記している時代と新約聖書の時代との間にある約400年間の歴史的背景です。

旧約聖書はユダヤ人のバビロン捕囚からの帰還と神殿再建、すなわちペルシャ時代で終わっています。しかしその後、新約聖書の時代に至るいわゆる「中間時代」（つまり旧約聖書と新約聖書の中間時代）と言われる約400年間は、ユダヤにとっても、ヨーロッパ・中近東世界にとっても激動の時代でした。ここで歴史の動きをつかむため、バビロン捕囚から新約聖書時代の終わりに至る関連した出来事を簡単に列挙しておきます。

BC 587 ユダ王国滅亡・バビロン捕囚

この間旧約聖書歴史書編纂（BC563 ブッダ、BC552 孔子生まれる）

BC 539 新バビロニア帝国滅亡、ペルシャ帝国成立、バビロン捕囚帰還

BC 515 第二神殿完成（ハガイ、ゼカリヤ・・・マラキ）

BC 490 マラトンの戦い（ギリシャ軍ペルシャを破る）

BC 458 エズラ帰還

BC 445 ネヘミヤ帰還（アテネ全盛期）

BC 428 プラトン生まれる

BC 336 マケドニアでアレクサンドロス大王即位

BC 331 ペルシャ帝国滅亡（ヘレニズム時代始まる）

BC 201 ローマ帝国地中海世界を制覇（BC221 秦の始皇帝中国統一）

BC 142 ユダヤにハスモン王朝成立（セレウコス朝から独立）

BC 63 ユダヤ、ポンペイウスに征服される（神殿を汚される）

BC 44 カエサル（シーザー）終身独裁官（BC48 クレオパトラ復位~30）

BC 27 オクタヴィアヌス、アウグストゥス（尊厳者＝元首）となる

BC 4 ヘロデ大王死ぬ（キリスト降誕はこれより以前）（仏教中国伝搬）

AD 6 ユダヤ、ローマの属州となる

AD 26 ピラト、ユダヤ総督となる（AD22 中国、後漢成立~220）

AD 47 パウロ伝道開始

AD 64 ネロによりローマ大火、キリスト教徒迫害（ペテロ、パウロ殉教？）

AD 70 テイトゥスによりエルサレム滅亡

AD 79 ヴェスヴィオ山噴火、ポンペイ滅亡

AD 80 ローマのコロッセオ完成

AD 135 バル・コクバ第二次ユダヤ戦争終結、ユダヤ人エルサレム追放

紀元前400年ころからバプテスマのヨハネが現れるまでが、預言の途絶えた「中間時代」と言われるますが、世界史的にはギリシャ・ペルシャ時代からローマの時代へと大きく変遷し、文化的にはギリシャ文化とペルシャ文化の融合が進む、ヘレニズム時代です。これは新約聖書の重要な前提となっています。

2. 新約聖書の成立

旧約聖書の成立に長い年月がかかったように、新約聖書が現在の形になるには、少なくとも300年近くを要しています。もちろん新約27書は1世紀の終わりには書かれていたのですが、その他の書と区別されたり順番が現在の順番に確定するのが4世紀末になってからだという意味です。

したがって、新約聖書の成立という問題についても「正典」ということが大きな鍵になっていることがわかります。現在私たちの手にある新約聖書は、決して最初から「聖書」として書かれたものでも、聖書としてまとめられたものでもないのです。新約聖書全巻を含む最も古いギリシャ語写本の一つである4世紀のシナイ写本では；

福音書
パウロ書簡（2テサロニケの次にヘブル書が入っている）
使徒行伝
公同書簡（テモテ・テトス・ヤコブ・ペテロ・ヨハネ・ユダ）
黙示録

の順になっています。

順番は現在と違いますが、含まれる27書が現在と同じでその他の書が排除されている最も古い証言は367年のアタナシオスの手紙であると言われます。しかし全教會的に27巻のみの正典性が宣言されたのは397年の第三カルタゴ会議でした。ですから一般的には新約聖書の正典確定をこの時においています。

遡って、ではいったいつ頃から各書が書かれはじめ、集められ始めたのでしょうか。

(1) 著作年代・・・F. F. ブルース「新約聖書は信頼できるか」による

マタイ福音書・・・85～90年頃
マルコ福音書・・・65年頃
ルカ福音書・・・80～85年頃
ヨハネ福音書・・・90～100年頃
使徒行伝・・・85年頃
ガラテヤ・・・48年頃
テサロニケ・・・50年頃
ピリピ・・・54年頃
コリント・・・54～56年頃
ローマ・・・57年頃
コロサイ・ピレモン・エペソ・・・60年頃
牧会書簡・・・63～64年頃
黙示録・・・？（1世紀末）

この推定年代はあくまでブルースの意見なので学者によって異同があります。たとえば、現在多くの方は新約聖書最古の書をパウロの1テサロニケとしていますので、上のガラテヤ書とテサロニケ書を入れ替えた方が良いのかも知れません。

いずれにしても新約聖書各書は1世紀後半の約50年間に書かれたものであろうという点では一致しています。また聖書の順番とは異なり、ブルースによるとパウロの手紙が最も古く、ついで牧会書簡、共観福音書（マタイ・マルコ・ルカ）、使徒行伝、ヨハネ福音書、ヨハネの黙示録という順番になります。

(2) 正典結集

多くは2世紀から3世紀にかけて、新約聖書の諸書と平行して多くの福音書や行伝、書簡や黙示録などが存在しました。たとえば現在確認されている外典福音書だけでも42書もあります。前に記したように確かに正典は教会会議によって決定されましたが、それは教会会議においてどの書が正典であるか協議されて決まったということではありません。すでに教会内でひろく正典的と認められていたものに公的な保証を与えたのです。

まず最も早く正典的権威が与えられたのはパウロの手紙と福音書でした。すでに新約聖書の中でパウロの手紙が高い評価を受けていたことを知ることができます。(2ペテロ3:15-16) またコロサイ4:16からわかるように、手紙は宛先の教会だけでなく、近隣のいくつかの教会で回覧され、集会で朗読されました。(1テサロニケ5:27) そしておそらく新約聖書として残った手紙は、近隣の教会だけでなく、書き写されて地中海を渡り、諸教会で読まれ、解説されたであろうと推測されるのです。

福音書については、なぜこんなにも遅い時代になって書かれたのかという疑問も起こると思われれます。今日でも説教は書かれるものではなく、語られるものであるという伝統が続いています。説教集なども出ますが、それはあくまで語られた説教の二次的な産物としての意味をもっています。礼拝が説教集を黙読することでなされるようなことは考えられないことです。あるいは何らかの事情で、書かれた説教を使うことがあったとしても、それをみんなが聞けるように朗読します。初代教会も説教や伝道はまず語ることをもってなされました。まだ十字架と復活やペンテコステの出来事の生き証人が活躍していた時代には、彼らの語る説教こそもっとも権威あるものでした。しかし徐々にその人たちが天に召されていくと、その説教を継承するために文書化して固定しなければならない必要性に迫られたであろうことは容易に推測できます。

ただ留意しておかなければならないことは、その時までまったく書かれたものはなかったと考える必要はないことです。現代でも何の資料もなく説教することはありません。「イエスの言葉集」や断片的な「言行録」が書かれて用いられたであろうと考えられるのです。現にそのような内容の資料も発見されています。当然のことですが、使徒たちの説教や証しを書き留められていったことでしょう。

またマタイ福音書やマルコ福音書、ルカ福音書の内容の比較からまずマルコ福音書が書かれ、それを下にこのような「言葉集」や「言行録」「証言」などを組み合わせて、マタイ福音書やルカ福音書が書かれたらしいということもわかってきています。ルカによる福音書冒頭には「わたしたちの間に成就された出来事を、最初から親しく見た人々であって、御言葉に仕えた人々が伝えたとおりの物語に書き連ねようと、多くの人が手を着けましたが・・・わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので・・・」とあるのはその事情を伝えるものです。

ヨハネ福音書は伝承によれば、ヨハネがすでに多くの福音書があることを承知の上で、それらとは違った観点から霊的な福音書を書いたと伝えられています。

では「新約聖書」という名前はいつ頃できたのでしょうか。「新しい契約」と言う言葉は2コリント3:6ですでにパウロが使っていますが、それは書物を指しているわけではありません。旧約の「文字」と対照されて「霊」とされています。書物のリストとして「新約聖書」が現れるのは2世紀末になってからで、それには思いがけない事情がありました。

(3) 新約正典結集の必要

では1世紀にはすでに書かれていた新約諸書が新約聖書としてまとめられるのになぜ1世紀も時間がかかったのでしょうか。

1世紀には(すなわち書かれてから数十年間)は、個々の福音書や書簡は礼拝の時に読まれる重要な書物となっていきましたが、旧約聖書のような正典化を必要としませんでした。しかし実際には、書き写され、回覧されていく中で玉石混合状態から徐々に重んじられる書の選別が無意識のうちに進行していました。

2世紀になるとローマのマルキオンがまず独自の正典を定めました。144年の教会会議でマルキオンは異端宣告されますが、教会の正典結集に大きな影響を与えることになりました。

マルキオンは旧約聖書の神を怒りの神、不完全な神とし、新約の神を慈しみの神、完全な神としましたので、旧約聖書を退けました。また正典としてルカによる福音書とパウロの手紙(テモテとテトスを除く)だけを認めたのです。このため正統的教会でも正典を制定する必要に迫られることになったのです。もちろんこのような動きはマルキオンだけでなく、(キリスト教)グノーシス派と呼ばれる流れに多くありましたから、2世紀から3世紀はキリスト教信仰にとって非常に重要な時期でした。使徒後に現れた使徒教父と呼ばれる人々がこれら多くの異端と闘い、正統的信仰を守ったのでした。ですからその後問題になるような基本的な事柄はほとんどこの時期に議論され尽くしていると言えるほどです。

(4) 正典選別の基準

明確な基準を設けて選別作業をしたということではありませんが、新約27書が正典として受け入れられるには、いくつかの基準があったはずで

まずマルキオンに対して、キリスト教会は旧約聖書を正典として受け入れましたが、それはユダヤ教の律法としての(信仰の中心としての)位置づけではありませんでした。パウロが解釈したように「救済史的」受け入れ方をしたのです。そして何と言っても主イエスの言葉の権威は重要です。しかし、考えて見れば権威ある主イエスの言葉はどのようにして見分けるのでしょうか。それを決定づけるのが『使徒的伝承』です。1コリント15:3以下にパウロが述べているのが使徒的伝承の核になる部分です。ここでパウロが伝えた福音は、パウロもまた伝えられたものであると記しています。どんなにすばらしく見え、もっともらしい教えであっても、あるいはこれは主イエスの言葉であると言われてたとしても、最初の使徒からの確かな伝承でないものは排除されたということです。

ついでに言うとも司教の権威というものの最たるものはこの使徒伝承の確かさにあるわけです。ローマ・カトリック教会は叙階によってその確かさが確保されるとしています。プロテスタント教会は、その確かさを保証するのは制度ではなく聖霊の御業であるとしています。

3. 新約聖書の写本と校訂本

新約聖書の写本について簡単にふれておきます。新約聖書は当時の共通語であるコイネー・ギリシャ語で書かれました。3世紀ころまで、キリスト教会では聖書の写本には皮の巻物を使ったユダヤ教と違い、主としてパピルスのコーデックス(綴じ本)を使用しました。迫害も影響してこの時代の写本はきわめて少なく、断片が砂漠地帯で見つかっているだけです。4世紀になると公認宗教となり、高

価な皮製の写本が多く作られるようになりました。このため保存状態の良い写本が発見されています。新約聖書校訂本の重要な写本はこの時期のものです。

- ・ ヴァティカン写本 : 最も重要な写本で4世紀。牧会書簡やヘブル書の一部、黙示録などが欠けている。旧約聖書を含む。
- ・ シナイ写本 (アレフ) : シナイ山の聖カタリナ修道院で発見されたのでこの名がある。4世紀。新約聖書の全巻と旧約聖書の一部。
- ・ アレクサンドリア写本 : アレクサンドリアで5世紀に作製されたと推定。一部欠損がある。旧約を含む。

その他断片を含めて新約聖書の写本は5300ほどあります。そのほか重要なのはシリア語などの古代訳や聖書日課、その他の書などの参照です。

口語訳や新共同訳などの原本としているのは、これらの異同を研究して作られているネストレ/アーランドの校訂本を元に発行されている聖書協会世界連盟「ギリシャ語新約聖書 第3版」です。(因みに旧約聖書の方は、ドイツ聖書協会「ビブリア・ヘブライカ・シュトットガルテンシア」)

新約聖書の本文批評で大きな貢献をしたのは英国のウェストコットとホート(1881年出版)ですが、徹底的な本文校訂作業を押し進めたのはドイツのネストレ親子でさらに52年からアーランドが加わって、ネストレ・アーランド版の新約聖書校訂本が現在もっとも信頼されています。(現在第27版1998年)

4. 新約聖書の構造 (新約聖書概論でくわしく学びます)

福音書・・・共観福音書 ; 最初の三つの福音書は大体同じような話題を取り上げ、同じような光のもとに主イエスの働きを見ている。共通する資料によるか、三つの内の一つを下敷きに書いている。

ヨハネ福音書 ; 主イエスの出来事に意味を与える福音書

使徒行伝・・・ルカ福音書の続編で、福音書と書簡の架け橋となっていると同時に、書簡の背景を与えている。福音がエルサレムから全世界へと拡大する過程を記す。

パウロの手紙・・・信徒の教導を目的として書かれている。福音の教会生活とクリスチャンの人生への適用である。

ヘブル書・・・旧約祭儀のキリスト論的解釈を示した論文

共同書簡・・・ヤコブ、ペテロ、ヨハネ、ユダの各書で特定の個人や教会宛に出されたパウロの手紙と異なり一般的。

黙示録・・・地上世界と、歴史とその先の永遠まで真に支配される神の天的世界を描いて、迫害に苦しむ信徒に最後の勝利を信じて信仰を全うするように励ます。

【課題】 ルカは主イエスを歴史上に位置づけようと努力していますが、ルカによる福音書の中で、そのような箇所を列挙してください。

次回は 2006年 1月15日 です。

旧約聖書をテーマに従って一年間学びます。